

所属・資格 体育学科・助教

申請者氏名 川井 良介

研究課題		体育・スポーツ実技科目が受講者の共感性や社会的スキルに与える影響
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>大学体育は、各大学の特色に応じたカリキュラム構成がなされている。本学部においては、基礎教育科目の健康・スポーツ教育科目として位置づけられ、講義としての「健康・スポーツ教育論」と実技科目としての「健康・スポーツ教育実習」が設置されている。</p> <p>これまでに大学体育（実技）を対象とした研究を概観すると、大学体育を受講することによって社会的スキルが向上することが明らかとなっているが、先述の研究は「個」に着目した研究が多く、集団生活の中で重要となる共感性について検討を加えた論文は極めて少ない。</p> <p>そこで本研究では、健康・スポーツ教育実習（健康・スポーツ教育実習2～5含む）が先述の科目を受講した学生の心理的な側面がどのように変化するかを検討した。</p>
	研究の結果	<p>本研究では、受講者の共感性を検討するために、多次元共感性尺度（Multi-dimensional Empathy Scale：以下、MES）を用いた。社会的スキルは社会的スキル測定尺度（Kikuchi's Scale of Social Skills: 18 items：以下、KiSS-18）を用いた。</p> <p>その結果、MESでは他者志向的反応と視点取得に有意な主効果が認められた。多重比較検定を行った結果、他者志向的反応と視点取得の両者とも、授業前と比較して授業後で数値が向上していた。KiSS-18では、初歩的なスキル、高度なスキル、感情処理のスキル、攻撃に代わるスキル、ストレスを処理するスキル、計画のスキルに有意な主効果が認められた。多重比較検定を行った結果、授業前と比較して授業後で上記の6つのスキルの数値が向上していた。</p>
	研究の考察・反省	<p>社会的スキルについて、本研究で上述のような結果となった要因としては、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、対象者の多くが大学での対面授業の経験を有していなかったことが影響したと考えられる。先行研究においては、週に1回程度の体育授業では社会的スキルが向上しないという結果も報告されていたため、対象者の特性が今回の結果に影響したことが大きな要因として考えられる。共感性については、スポーツチャンバラのような道具を介して相手を打ったり、相手に打たれたりする対人種目を教材としたことが、対象者の視点取得や他者指向的反応を変化させたと考えられる。しかしながら、本研究では対照群を設定していなかったため、上述の結果が体育授業によるものなのか、スポーツチャンバラによるものなのかを明確に言及することはできないため、今後は本研究で明らかとなった課題を克服できるような研究プロトコルを設定し、比較・検討を行いたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>【研究発表】 「大学における一般体育受講者の共感性や社会的スキルの変化—スポーツチャンバラとグループフィットネスエクササイズを教材とした授業の比較—」. 日本アプライドスポーツ科学会第2回大会, 2023年1月21日, 日本大学工学部.</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【研究成果物】 「スポーツチャンバラを教材とした大学体育授業における受講者の共感性および社会的スキルの変化」. 『日本大学FD研究』, 10: 1-13, 2023年3月31日.</p>	